

【大阪】近畿運輸局は10月25日、次世代を担う子供たちの物流への理解を深めるため、豊中市立第七中学校で、2年生3クラス、計120人を対象に物流に関する出前授業を実施した。

## 近運局

運送業界からは、越野運送（大阪市都島区）の越野泰弘社長が協力し、運送事業の現場や仕事のやりがいなどを伝えた。

大阪海運組合の上窪良和会長が、海運の役割や船員の生活をクイズを交えて紹

# 中学校で物流出前授業

## 越野運送が協力



介。続いて、越野氏は、自社のプロモーションビデオや作業風景の写真を使用し、生活と経済を支えるトラック輸送の役割、ドライバーのやりがい及び責任について説明した。

越野氏は「誰でも自由に職業を選ぶことができる。しかし、仕事の内容によって、求められる

CNG仕様の4トウイング車を使い、ウイングやテールゲートリフターを實際に操作（25日）

る資格や能力は異なる。職業の選択肢を少しでも増やせるよう、勉学に励んでもらいたい」とエールを送った。

終了後、グラウンドに用意したCNG（圧縮天然ガス）仕様の4トウイング車を使い、ウイングやテールゲートリフターを實際に操作し、幅広いニーズに応えるトラックの機能を解説した。

26日は、カーフェリーと宅配事業者のターミナルを見学。物流の現場に触れながら、生徒らは見聞を深めた。（小栗史和）